

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-20 シルバー人材センター支援事業				タイムスコード及び個別事業名				
	□支援部門				890	シルバー人材センター支援事業			
主管課	高齢者いきいき課	関連課		1365	シルバー人材センター事務所移設事業				
分野名	健康福祉								
目標 (目標値)	高齢者の健康と生きがい及び社会参加を図るための就業機会の提供								
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考					
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯						
運営資源 状況	決算値	73,263千円	59,631千円	21年度決算値には、事務所移転費用の11,797千円と旧事務所解体費用の2,310千円が含まれている。					
	(国・県)						指標と評価		
	(負担金等)	7,000千円	7,000千円				指標	シルバー人材センター会員人数	
	(一般財源)	66,263千円	52,631千円				評価	△	
	人員配置数	0.3人	0.3人				◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		
	人件費	2,809千円	2,828千円				目標値	実績値	
事務事業 運営経費	総事業費	76,072千円	62,459千円	H21 対象者数 (シルバー会員数) :738人					
	市民1人当りの経費	431円	354円	20年度	900人	726人			
	対象者1人当りの経費	103,079円	86,032円	21年度	900人	738人			
				22年度					
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名								
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 就業希望者登録制度の仕組みづくりを目指す。 団塊世代会員の加入促進と就業分野の開拓・拡大に努めるよう支援していく。 独自事業の新規開拓に向け支援していく。							
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 「パソコンよろず相談事業」を始め、就業希望者の入会促進活動を継続して行った。 他市シルバー人材センターと合同の研修会を行い、通常の単独の研修会も含めて会員の技能向上に努めた。							
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 年度当初は事務所の移転等があり、6月末まで事務所が落ち着かず、会員にもうまく対応ができなかった。 会員数は微増にとどまっており、また昨今の経済情勢からセンターの受注件数も減少している。 独自事業の新規開拓には至っていない。							
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) (企業や社会のニーズを的確に調査・研究し、新たな職種の開拓、会員の適応能力の向上を図る。) (新規需要開拓のため、チラシ・広告等を地域に定期的に配布する。)							
一次評価(課長評価)			二次評価(部長評価)						
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了									
評価結果	改善の必要性	就業職種の拡大を支援していく。高齢者の就業の場として地域社会の要請に的確に対応していくことが必要であり、将来的には自主事業の拡大と自立運営を目指すシルバー人材センターを支援していく。		評価結果	改善の必要性	就業機会の提供は、高齢者の生きがいや社会参加を図る上で必要である。今後は組織の見直しを含め検討を進めていくよう要請していく。			
B	有			B	有				
課長名	高齢者いきいき課長 比連崎 勝			部名・部長名	健康福祉部長 石井 和子				